
現勇者元女子高生の恋 ～崖の先は異世界外伝～

ザマソー小説部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現勇者元女子高生の恋　　崖の先は異世界外伝

【Nコード】

N1857P

【作者名】

ザマソー小説部

【あらすじ】

文学少女と男子校生の普通の恋。勇者になってしまった主人公が、日本での恋を振り返る。

（前書き）

崖の先は異世界の外伝です。今のところは全く関係ありませんが、将来的にはかかわってくることになります。

崖の先は異世界の更新をお待ちの方。執筆者の調子が戻るまでお待ちください。

またこの小説は「描写まったくなし」という意味不明な縛りでの投稿となります。会話だけで読める方のみ、読み進めてください。

彼との関係はただのクラスメートだった。

「なあ桜井、お前って休み時間にしゃべる友達とかいないのか？」

「……何が？」

「いやだって桜井って、なんか1人じゃない時とか見ないし……」

「……友達としゃべると本が読めない」

「ああそうなんだ……。もしかして、俺って邪魔してる？」

「……大丈夫」

「え？」

「……この会話には5%も脳を使ってないから」

「……。お前ってけっこう失礼な奴だよな」

「……失礼でも本は読めるもの」

「……まあまた来るわ」

「……そう」

彼とはウマが合うわけでもなかったし。

「音楽とか聴かないのか？」

「……音楽を聴くと読むことに集中できない」

「そ、そうなのか。じゃあ、スポーツとかは？」

「……やってるように見える？」

「見えないな……。じゃあさ、ゲームはやるだろ？」

「……やらない」

「えー、お前って何か趣味ないのかよ……」

「……本」

「……。ちなみに、なに読んでるんだ？」

「……勝手に見たら？」

『見せてはくれないの……。って、よくわかる経済学……。?』
『……そう』
『それって面白いのか?』
『……最後まで読まないと分からない。でも今のところは面白い』
『おっ、初めて一言しゃべらなかつたか?』
『……』
『え、無言?』
『……どうでもいい』
『だよな……』

委員とか特別な繋がりがあつたわけでもない。

『絶対、お前は図書委員だと思つただけだな……』
『……図書委員は倍率高かつたから。確実に入れて片手が空く委員がいい』
『あれ倍率高かつたんだ……。というか、美化委員だつて片手でできないだろ……』
『……ゴミ拾いも水やりも、この苗植えだつて片手でできる』
『そんなもん、桜井だけだよ……。あ、ページ捲る時とかどうすんだよ?』
『……20秒まつて』
『やっぱり、今めくるとかはしないのな……』
『……右から左はできても逆はできないから』
『へえ』
『……』
『……』
『そういえば、お前つてさ……』
『……（ペラッ）』
『インドアかと思つてたけど、意外と外にいても違和感ないな』
『……そう』

『…………』

『…………』

『あれ、ページはいつ捲るんだ？』

『……もう捲った。次は20秒後』

『いつの間に！？』

『……そういえば、図書委員のあなたがなんでここにいるの？』

『え？ まあ暇だから、桜井は何やってるのかなあ〜って気になつて』

『……飼育委員。今の仕事は苗植え（ペラッ）』

『そうだな。まあ、本を片手に土いじってる奴を見るのも面白いよ』

『……そう（ペラッ）』

『……。あれ、いつページ捲るんだ？』

『……もう捲った。次は20秒後』

『ええええええええ？』

だけど、いつしか彼は私の心の中に入り込み。

『先生、こっちです！ 早く！』

『チッ。先公か、ズラかるぞ』

『……という文を大声で言ってみただけど』

『いてて……。普通こういう時って「大丈夫？」って言って駆け寄ったりしないか？』

『……この本では「ふん……助けたんだから感謝しなさいよね」と鼻を鳴らしているわ』

『まあ駆け寄ってるお前も想像できないし、普段通りで安心したよ。あと、ありがとよ』

『……ん。怪我してるわね、保健室まで行ってあげてもいいよ？』

『それはセリフじゃないだろ』

『……どうして？』

『そのセリフだけ一貫性なさすぎだろ……。心配してくれんのか？』

『……5%だけ』

『5%？残り95%は？』

『……続きが気になる』

『オイッ』

『……保健室に行かないなら帰るけど？』

『マジで5%だけなの……。まあ手当てしてもらっ怪我でもねえし、気持ちだけ受け取っておくよ』

『……ダメ。行くの』

『え？あ、ちよつと桜井！引つ張るなつて！』

『……見栄を張る人つてすぐに「しばーふらぐ」が立つんだつて』

『ははは、そんなわけ……』

『てめえコラ、調子こいてんじゃねえぞー！！』

『うおおつ、逃げるぞ桜井！』

『きゃっ』

一時は私の枷となつて。

『……ごめんなさい、もう話しかけないで欲しいの』

『……え、急にどうしたんだ？』

『……あなたと話していると、本を読むことに集中できないの』

『は……はは……、なんだよ、それ。5%で話してるんじゃないのたのかよ……？』

『……あなたと話すと気を使つてしまうの。5%ではなくなつてしまつたわ』

『っ！別に気を使わなくなつて、今まで通りでいいから！そんなこと言つなよ……』

『……その発言はとても矛盾してる。気を使つなつて言つなら話さないし、気を使つなら話したくない』

『ッッ……キツいぜ……そういうこと言われんの……。俺はお前のこと……好き……だつたんだぜ……！』

『……私も、嫌いではなかったわ』

『くっ、……じゃあな！ 二度と……お前の前には……あらわれねえからよ……！』

『……涙？ 私と話すのがそんなに楽しみだったの……？』

でもそれは、好きいう感情だと知って。

『待って！』

『離せよっ！ お前の顔なんか見たくもねえ！』

『私の手を……払っちゃうの……？』

『っ！……んなこと言われたら……、振り払えるわけ……ねえだろうが……』

『こつちを見て……』

『っ馬鹿！ 今お前の顔を見たら……俺は……！』

『こつちを……見て……くれないの……？』

『っ！ くっ、ちょっとただだぞ……？』

『うん……』

『……』

『あれからあなたと離れたけど、ずっとあなたのことを考えてしま
うの』

『え……？』

『それは“好き”っていうことなんだって。多分、あなたと同じ……
……きやつ』

『馬鹿……手を繋いで……こんな至近距離で好きって言われたら……
……抱きしめたくなるだろうが……。ごめんな……。こんな急に……』

『……大丈夫。私は分からないけど、好き合う者同士は抱き合うん
だって』

『……。それは意味が違くないか……？』

『……？ そうなの？』

『まあ、どっちでもいいけど……。それより、もうちょっとこの

「ままでもいいか？」

「……うん」

「お前って思ったより、胸あるんだな」

「……私は平均未満。わからないの？」

「んなこと知らねえよ！？」……その……抱き合っただことなんて初めてだし……／／／」

「……！！私だって、ない……／／／」

「……」

「……」

「お前が恥ずかしがるなんて珍しいな……。初めてじゃないのか？」

「っ／／／……あなただって初めて」

「ははは……言われてみれば、そうだな」

「……」

「なあ……」

「……何？」

「名前で読んでいいか……？」

「……うん」

「んじゃ美穂……、名前で呼んでくれないか？」

「……？名前、知らない」

「え、同じクラスだったのに？」

「……だって興味なかったもの」

「……まあいいけどよ。俺は永沢 麗。永遠の永に水辺の沢、綺麗の麗。男に付ける名前じゃねえっての……」

「……麗君。私は桜井 美穂。桜色の井戸に、美しい稲穂になる」
「いや知ってるけど」

「……名乗られたら、名乗らなくちゃいけないんだって」

「……まあお前がそういうんだったら、いいけどよ。ところでさ……」

「……」

「……ん？」

『俺らは付き合うつてことで……いいのかな?』

『付き合つには告白して、相手がおーけーしなきゃダメなんだって』

『そ、そうか。それじゃ、んんっ』

『麗君が好きです。付き合ってください』

『ぶふおっ』

『……? どうしたの?』

『な、なんでもない……。俺も美穂が好きだ。付き合ってくれるか?』

『……お願いするのに、お願いされるの?』

『求め合うつてことだろ?』

『……そう。私も好き』

そうして得た、私の幸せ。

でも今は、そのささやかな幸せは壊されてしまった。

『あなたは魔王によってここへ飛ばされてしまったのですよ。幸い、あなたには勇者の素質がお有りのようです』

許されざる魔王によって。私の大好きな彼とは。

抱き合うことはおろか、口をきくことも。会うことすらできなくなってしまった。

「麗、ごめんね。早く魔王を倒して、君の元に帰れるように頑張るよ」

壊されてしまったものを取り返すために、私は勇者になることを望んだ。

（後書き）

お付き合い、ありがとうございました。
感想をいただけると筆者がよろこびます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1857p/>

現勇者元女子高生の恋 ～崖の先は異世界外伝～

2010年11月28日00時40分発行